

サモアの交換経済

1980-10-31

～作業ノート～

橋爪大三郎

お元気ですか、翔直の方はいかがでしょうか？ 二の間真高さんの報告をきいて考えましたが、Samoaの交換システム全体をマクロ的に分析モデルにできるのではなからしいという気がします。数量経済史というのがあり、江戸期各藩の所得分析などしてしまつたら、"数量人類学"というのがあるかもしれないでしょう。ポイントは、Samoa人の平均生活時間労働日分析、各人(各aiga)あたり平均fa'a lavelave回数、豚・イモ・...等各種物の生産係数、ie togaの生産係数、平均流通速度...などのデータ、および貨幣と市場の時系列データ(市場価格の水準、通貨の物価変動各財についてできる限り古くから、米軍の事業規模、着した数、援助物資のデータ、通関統計、各種モノサステータ、New Zealandからの送金、...)です。するとClassicalなtoga/oloaの対立が破れて新しい財のシステムを形成するに致さぬが、ie togaのインフレ傾向とも併せて余すところなくまぼろしになると思われる。商品経済いかならデータあつめは必ずしもいいけど、うまくいけば交換メカニズムの変容という点で、とても面白いケースになると思います。データさえあれば私も頭をひねってみたいので、ちょいと気にかかると集めてみませんか？ 手紙がおそくなり申しわけない。

山本 義雄・真高 様

'80-7-16

橋爪大三郎

- 1. 目的
- 2. システム
- 3. 方法
- 4. 主体分析
- 5. 財
- 6. 集計
- 7. 時間
- 8. 均衡
- 9. 市場
- 10. 検証

0. 発端 左をみよう。

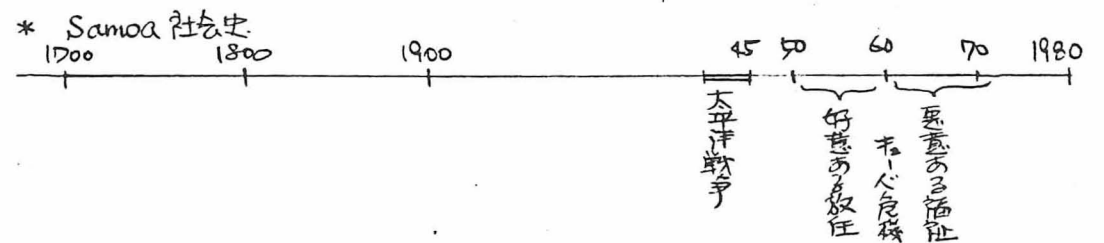
1. 目的 * 交換は、社会の全体的な事象である。各informantの語る内容は、社会経験という局所的現実(local reality)に起因する。これは社会装置という全体的事象(global matter)に交換する前提が必要である。
- * 全体的な事象としての交換は量的な現象である。定量的な説明が交換システムの〈中〉を明らかにできる。(これは局所的な現実からいって掘削してもたどりつけない地帯からはいれてみてもいい。装置が機能に言及する場合は、意識論は無効なことになる。)

2. システム * 記述=説明の対象であるシステムは、単純化、理想化によりつくりあげられるモデルである。

* モデルは、解釈を施す、経験的な資料とつきあわせて整合すると、経験的な見みをもつ。

* Samoaの交換システムのモデル

- 古典的 classical 市場・貨幣経済の不在
- 変質的 acculturated
- 単純 simple
- 複雑 complicated
- 閉鎖 closed
- 開放 open 他の交換システムとの連絡がある



とくに American Samoa / Western Samoa の分離と後者の独歩が、語を叩きつけている。とくに Samoa System と考えられるものか？

	Classical	Acculturated
Simplest	aiga	aiga
simple	Royal aiga	Church Government
↑ complicated	carpenter	carpenter
		townsmen Firm
↓ open	merchant	trade transfer ← New Zealand

3. 方法

- (1) Macroeconomic Analysis (国民所得分析): 国民所得, 貯蓄などのマクロ諸変数を合成し, 2つの間の関数関係を説明する
- (2) $\left\{ \begin{array}{l} \text{Econometrics (計量経済学)} \\ \text{Social Accounting (社会会計学)} \end{array} \right.$
 : 企業(Firm), 家計(Household), 政府(Government) ... の会計 Accounting (Double Accounting) を集計して, 社会会計を算定する

(3) Microeconomics (価格理論 ~ 狭義の一般均衡論) ^{GET}

(4) I/O Analysis (投入産出分析): 投入産出係数の異なる生産工程が複数ある関係にあるときの, 線形近似 (Marxの"資本論"は基本的にこれである)

↑ General Eq. Theory

↓ (5) Monetary Theory

$$MV = \sum p q = P q$$

$$MV = PT$$

$$MV + M'V = PT$$

I. Fisherによる "貨幣数量説" の定式 (数量方程式)

M: 貨幣数量 } 銀行券および紙貨 M
 } 銀行預金 M'

V: 貨幣の各単位が流通上使われる平均回数

p: 交換比率 (貨幣と財) 各商品の価格
 q: " " " " 数量
 P: 価格水準係数
 T: 取引水準係数

- * 分析の要点
- i) Actor (経済主体): Behavior Function (行動関数)
 - ii) Goods (財): Equation (供給方程式)
- ↓
Rice 価格分析

* さて, Samoaの交換システムはなかで, ie togaが全人の交換財であり, 2人が交換システムの量的均衡を保持しようとする現象にまついた仲介手段であるとすると, ie togaの価格作用を焦点にする。Samoa経済の「価格」分析が思いつかれる。

4. 主体分析

* aiga ? ambilineal descent group ? unit of land tenure

- matai } ali'i
 } tulafale

男性一般
 女性一般
 青年男女
 少年少女

① 労働量/労働内容/生活時間/食事/消費生活

平均積蓄係数
 平均年令積蓄

- 資産リスト 土地
 うら. 農地/草地/山林/居住用地
 (如分権の存在) 樹木
 ち. マヤ/バヤ/...
- 家屋
 カマ
 その他生産手段/共同利用の消費手段/...
 ie toga 等のストック。
 各財の耐用年数 (減価償却の基礎)

□ あるaigaの, 勘定(Accounting) (参照参照)

□ Samoa全体のaiga総数。

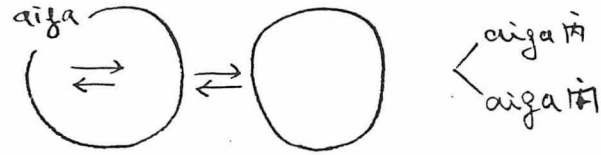
ex. 財の標準形式

【生産基定】段階Ⅰ	生産に使用される原料 および用役の費用 相互間格的移転 残高	財貨と用役の総産出高 受取間格的移転
段階Ⅱ	減価償却費 残高	前産出高から総産出高 (前段階の残高)
段階Ⅲ	所得(利潤もしくは 賃金)	総生産高(前段階の残高)
【所得・支出勘定】段階Ⅰ	支払利息と配当金 残高	所得 受取り利息と配当金
段階Ⅱ	支払直接的移転 残高	純所得(前段階の残高) 受取直接的移転
段階Ⅲ	消費 貯蓄	可処分所得(前段階の 残高)
【貯蓄・投資勘定】段階Ⅰ	支払資本移転 残高	貯蓄 受取り資本移転
段階Ⅱ	総投資 総返済 現金の蓄積	総投資利回金(前段階の 残高) 減価償却費 総借入金

上記の原理は、どんな経済システムに於いても適用可能なのは「財のたか」が、われわれの
手-2では、必ずしも、一筋なわけはないがぬ。

- * Royal aiga
- * Church
- * Carpenter
- * Government

* 各 aiga や他の組織主体のすべてにわたる。上記のような Accounting を
実行できれば、そこから Social Accounting を作り出すことができるはず。



* aiga の多義性 この aiga が「経済主体」であるのか？ 空間の区画分割と
与えるような aiga を、どうみつけられるか？

5. 財

* toga / oloa / sua ... は、財自体の分類ではなく、交換の状況下
での規定である。財自体の分類軸を、とるとは別に用意した
わけではない。

* 消費されるものの系列では、父/アタ/女性 の3つが必ず本質的。= 父に
ie toga が加わると、システムが完成する。

父 主食 魚もこれに準ずる。生産係数。
アタ 本質的に、弁別する。と、そのとを並べ替えて、父とアタ、
父も上立にあくせとに、権力の仕掛けがある。
(アタの生産係数と110に決定できないが、大きな
ポイント)

女性
ie toga ie toga は、単本労働(あるいは下代)を投入し、システム
の交換として与えられるのである。

*
Hyp. 穀物は大きな権力体と関係がある。父は与りではない。(保存性、水利系)
Hyp. アタの過剰は、権力の過剰(マティン)をうみだす。
New Guinea の te / moka システム
↓
(Matori's Hyp.)

Hyp. Samoa Type ⇔ Tonga Type
'権力'を刻々解除し。 同じ空間で、centralize
De-centralize するわけに。 lize した例。

【解決】アタの消費は、女性の消費と相伴する。女性
の消費「権」は、ie toga。(稀少性α創出→
この蓄積は、権力を過剰に作る。)

6. 集計

* '経済学' は何か? 貨幣の存在市場を前提にしているの? (価値額 (価格 × 数量) の, 一元的集計が可能である) 従って, 「集計問題」は問題に可及的である。

* 唯一の例外は Marx の (系) であり, 従って「価格 / 価値の 2重の集計」が行なわれた。この点, 価値の集計単位は 労働時間 (投下労働量) である。

注) 価格はちよとときの市場で決定され, 可変的である。従って, 価格を介した集計量を用いて, 「経済成長」を測定(する)ことはできず, かつ「みとめる」は, 長期的要因による。経済システムの変遷が生じるに限りはかゝるである。ちよと「変遷」のあとでは, システムの成長と「量的」にはかゝることはむしろ「みとめる」。

* Samoa の交換システム (classical) は, Market が無い。 <money> が存在しない。よって, 集計因子としての「価値」は欠落している。

↓
Marx の $E \sim$ 労働時間 \sim により 基準は, Market が貨幣の有無に依存しないことを 思ひかゝる。

↓
労働時間 L は 集計単位に依る。 (各財の生産係数を l_i とする。)

Th. 各財の (L を含む) 価格は, 投入産出行列 E と L を求める (Leontief) である。 (魚の価値 l_1 と, かつ l_2 の価値が適宜である。 (転形問題))

この価格は, 生産システムが既に与える属性であり, 人々の意識とは無関係である。

* 上記 "労働価値論" の前提

- (i) 単純 / 複雑な労働
- (ii) 一律の生産技術 (線型)

など (Morishima [1973=1974:32]) が示していることを示さる。 (資本財が希少な存在する E の, 容易に示す。)

7. 時間

* 集計量は, stock ではなく基本的に flow である。従って基本的には, 時間間隔の単位を指定しなくてはならない。

* 季節変動, ちよと Q の回転回数 n が大きい n と Q の n である。 Q の回転期間

Q の回転期間

$aiga \times \mu$ - a の回転回数

* ある期間を指定して, ちよと Q の各活動をカウントする

期間あたり 平均 f_a a levelave 回数

" 平均 Q の層級数

" 平均 Q の出生数

" 平均 Q の生産量

" 平均 漁獲高 Q

* 時間単位としては, '年' が適当であろう。

8. 均衡

* 古典的なシステムは, ある定常状態に均衡しつづくと考えられる。

* 古典的なシステムは, (西洋世界の人間にとって) 原理上生産可能である。従って, ちよと Q の Q は何であるか?

Hyp. 生産技術 E , Q の Q である Q は, Q と変化しない。 Q の Q は Q の Q である。

古典的なシステムを解く。 Q の Q を決定する。

Hyp. Q は, 生産水準 Q である。

Hyp. 残りの Q は, Q の生産, f_a a levelave, ie toga 生産 Q である。

Hyp. 両者の生産 Q の Q は, Q と Q の Q を Q の Q である。 ie toga 交換 Q である。

Q の Q は Royal Family や big title の場合 Q の Q であるか?

* Yamamoto's Hyp.

Classical System にかゝる Q の Q は, Q の Q は伸縮性 Q の Q である。 Q の Q は一定に保たれる結果, Q の Q は Q の Q である。 ie toga の Q の Q は Q の Q である。

↑↓

対立 Hyp.

(i) ie toga は Q の Q である

(ii) ie toga の Q の Q は, Q の Q である (Q の Q)

(iii) ie toga の Q の Q は, Q の Q である。

4) ie toga が市場を通じて他へ流出するもの不足する。

この仮定を「検証」するために、ITOP、変容ITOPに
 説明を求めた。

9. 市場

* aiga と市場との関係を示すのはITOPではない。aiga
 は市場における actor として登場しなくてはならない。

* 市場とは、\$ を介して商品である。

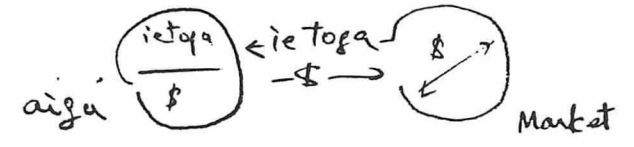
- * 金の流入・流出は国境、たがひに正負符号。銀行の統計
- 商品の " " " " " " " "
- 米穀、海兵隊の軍費規模, " "
- NZ からの送金の規模, " "
- ITOP 援助の " " " "

* aiga が持っている現金は、aiga が商品を市場へ売却することによって、2つの
 Eの2つに（移転）なすものである。これはITOPのあり、722
 である。

↓
 ・平持ち現金の消費性向

現金の移転は、aiga の生産的労働が、より減少する
 である。

* ie toga の表示価格 ~ 二重の円を介してか?



ie toga の関係、
 である
 (他商品 (カニ) と
 の代替性をもとに)

* 表示の生産費 (L) と、ie toga の価値 (L) の \$ 価格とは、一致
 する?

賃労働も商品生産も存在する。ie toga の \$ 表示が、ie toga
 の価値 L を上回る。ie toga 生産の労働力には存在
 する。F2, \$ が下がる。ie toga は不足する。

10. 検証

+ 仮定は、Yamamoto's Hyp の方が
 113113 考える。

* 545 可能な仮定を検証するには、十分に小さい経済の
 マクロモデルを設定している必要がある。

* Market における、物価水準の下降
 への輸入数量の下降 } aiga の商品の有効
 需要。
 これを算定するために、セクター
 貨幣支出量。

* Samoa の Market は、国際市場と連動しており、むしろ外世間の秩序である。Samoa の
 固有システムではない。

ITOP には生産システムはない。むしろ市場で売られている商品は、国際市場による

aiga の交換システムの秩序と、Market の秩序は無縁である。

独立系である classical system は、L で集計する。市場は \$ で
 集計される。

* \$ は、商品社会の資本制的な貨幣であり、創造力と信用 (購買力) である。

ie toga が市場で売られるという事は、売値が定額と以下のみで
 あるかどうかが重要であり、それが一般に aiga 交換システムに
 関係する。— したがって、ie toga 市場は成立しない。

* \$ が aiga 交換システムに、侵入しうるという事の意味は、のり厚く相対的に
 あることか、かたは現金である。(\$ の flow の流す方向は、物質購入
 量を示す。逆に、物質購入量が示すのは、\$ から、\$ を消費する)

↓
 aiga のシステム内では、\$ は、その現物性 (商品引換券) に変質
 している。(理論値)

* 222: ie toga への自給的労働力と、均等にして、\$ の
 貯蓄量を根拠に、計算することによって示す。(\$ をあて、
 722 が如く = F2)

この結果、classical システムと同一: ie toga の値上がり
 傾向がみられる。ie toga 不足心理 (T2) の傾向が強い
 うなものである。

* 結果 check: ・ 個別会計からの推定値、マクロシステムとの一致。
 ・ 理論値と、観測値との、傾向的一致。

SELECTED BIBLIOGRAPHY

- 赤羽 裕 1978 『アンシャン・レジーム論序説 : 18世紀フランスの経済と社会』, みすず書房。
- 1971 『低関税経済分析序説』, 岩波書店。
- Ekeh, Peter P. 1974 Social Exchange Theory, Heinemann Educational Books Ltd., =1980 小川浩一訳, 『社会的交換理論』, 新泉社。
- Firth, Raymond (ed.) 1967 Themes in Economic Anthropology, Tavistock Publications.
- Galbraith, John Kenneth 1975 Money: Whence It Came, Where It Went, Houghton Mifflin Co., =1976 斎藤重人監訳, 『貨幣。その歴史と展開』, TBSアタカ。
- Godolier, Maurice 1965 "Objet et methode de l'anthropologie economique", L'homme 5-2: - . =1980 今村仁司訳, 『経済人類学の対象と方法』, 『経済人類学序説』: 11-114.
- Harrod, R.F. 1969 Money: A Comprehensive Account of the Nature of Money and of the Development of Monetary Theory and of Modern Institutions, Macmillan and Co., =1974 堀野善九一訳, 『貨幣 — 歴史・理論・政策 —』, 東洋経済新報社。
- 橋爪大三郎 1979 『論としての貨幣(中)』, 『ソマオログス』 3: 116-121.
- 達北祐次郎 1973 『日本農業の成長過程』, 創文社。
- Hicks, J.R. 1960 The Social Framework, Oxford Univ. Press.
- 1971 The Social Framework (4th Ed.), Oxford Univ. Press, =1972 酒井正三郎訳, 『経済の社会的構造 (第4版) — 経済学入門 —』, 同文館。
- 稻田 献一 1970 『新しい経済学 増補改訂版』, 日本経済新聞社。
- Kindleberger, Charles P. 1953 International Economics, Richard D. Irwin Inc.
- 1968 International Economics (4th ed.), Richard D. Irwin. =1972 相原光他訳, 『国際経済学(第4版)』, 評論社。
- 栗本慎一郎 1979 『経済人類学』, 東洋経済新報社。

- Lévy-Garboua, Louis (ed.) 1979 Sociological Economics, SAGE Publications Ltd.
- Mead, Margaret 1961 Coming of Age in Samoa, William Morrow & Co., =1976 畑中幸子・山本真馬訳, 『サモアの思春期』, 蒼樹社。
- Morishima, Michio 1973 Marx's Economics: A Dual Theory of Value and Growth, Cambridge Univ. Press. =1974 高橋賢義博訳, 『マルクスの経済学 — 価値と成長の二重の理論 —』, 東洋経済新報社。
- 中尾 佐助 1966 『栽培植物と農耕の起源』, 岩波書店。
- 根岸 隆 1980 『ケインズ経済学のミクロ理論』, 日本経済新聞社。
- 西川 俊作 1979 『江戸時代のポリティカル・エコノミー』, 日本評論社。
- 野口 弘 1978 『既のサイクル』, 『数学セミナー』 17-11: 38-45.
- 社会経済史学会 (ed.) 1977 『新しい江戸時代史像を拓く』, 東洋経済新報社。
- 新保 博・速水 融・西川 俊作 1975 『数量経済学入門』, 日本評論社。
- Schneider, Harold K. 1974 Economic Man: The Anthropology of Economics, Free Press.
- 山本 泰・山本真馬 1979 『消費の禁止/性の禁止 — サモア社会の交換システムの構造分析 —』, (未発表)。
- Yamamura, Kozo 1974 A Study of Samurai Income and Entrepreneurship: Quantitative Analyses of Economic and Social Aspects of the Samurai in Tokugawa and Meiji Japan, Harvard Univ. Press. =1976 新保 博・神本哲男監訳, 『日本経済史の新しい方法 — 徳川・明治初期の数量分析 —』, ミズウヤ書房。